

MARIANISTES

—— マリアニスト ——

誰の名を呼ぶのか

マリア会 山崎 貢

深夜、就寝中、突然腹痛を覚えた。最初は我慢できたのだが、次第にそれも怪しくなった。何度もトイレに駆け込んでも痛みは治まらない。後から考えれば、薬を服用するとか修道院の誰かを起こして救急車を要請してもらおうとか、さまざまな方法が考えられただろう。しかしその時は、自分で何とかしなければとしか頭になかった。無理矢理眠って痛みを忘れるとか、大きく息を吸い込んだまま息を止めて腹筋に力をいれるとか、さまざま試みた。

当然のことながら、そのどれもが効果的でなかった時、遅ればせながらやっとのことで自分の死を意識した。「ああ、俺はこのまま死んでしまうのかもしれない」。深夜、灯りを消した部屋でひっそりと死んでいく。それまでは痛みをどうにかしなければ、とのみ考えていたのだが、死を意識した時、初めて恐怖を感じた。

死を考える時、私達は平常心ではいられない。未知の領域に独りで踏み込んでいかなければならないことを思うとき、不安が先立ってしまう。誰かこの心細さから私を救ってほしい。誰かに寄り添ってほしい。この孤独から自分を救い出してほしい。その死を遠ざけることは叶わなくても、どうか自分の死に目を注いでほしい。

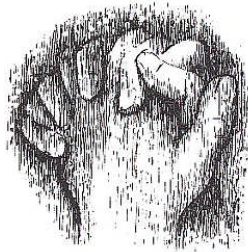
イエスは、死を迎えるにあたって、神の名を呼び、ステファノはイエスの名を呼んだ。イエスは神に自分の生も死も委ねようとし、ステファノはイエスに全幅の信頼を寄せた。

私は遠くにいる母の名を呼んでいた。

翌朝、起きた時には、痛みは嘘のようになかった。多分、夕食の食べ合わせが悪かったのだろう。人騒がせな一夜であった。

「Respice Stellam Voca Mariam」(星を仰ぎ、マリアの名を呼びなさい)という言葉は、若い頃から耳にし、目にしてきたが、いざとなるとなかなか難しいようだ。その一方で、今でも私は母なるものを求めるものであったということは言えるかもしれない。

世間では、未だに若手と言われることもあるのだが、それでもいつの間にか人生も半ばを過ぎてしまった感がある。やがて自分の生をまとめる時期にさしかかるだろう。その日がいつ訪れるのかはわからないが、遅かれ早かれその日はやってくる。その時私は誰の名を呼んでいるのだろうか。



韓国のカトリック教会

マリア会 富来正博

「韓国天主教(カトリック)統計概況」によれば、韓国のカトリック信者の総数は2007年12月31日現在で487万3447人となっています。1980年代、韓国には200万人のカトリック信者がいるそうだよ、と聞いて驚いていた私たち日本のカトリック信者は、この統計の数を知って、もっと大きな感嘆の叫びを上げることでしょう。「なぜ」と言うことは別の機会に考えて見たいと思いますが、今回は私が垣間見たわずかの見聞にもとづいて、カトリック教会の姿をご紹介します。

修道院の生活を送っていた私は、一般の信者の方の生活についてはほとんど知りませんが、数回小教区のミサにあずかって感じたことですが、信者の方々が非常に熱心だと言うことです。修道院でミサがないとき、近くの教会のミサにあずかっています。朝6時と言うのに、100人ほどの老若男女が熱心に祈る姿は長崎の教会を彷彿とさせるものでした。

それに、司祭の説教に積極的に反応する姿は日本では見られない光景でした。面白い話だと笑い声を上げる。「・・・でしょう？」と言うように問いかけられると、「イエー、はい」と答える。言葉にして答える人もいました。日中の教会活動がどのようなものは、私は知りませんが、要理の勉強会が毎日組まれているようです。要理を教えるのは、シスターや信者の人たちでした。このようにして信者の数が増えていくんだなー、と感じた次第です。数は力とい

いますが、500万人のカトリック信者、千数百万人のプロテスタントの信者、人口の二割にも達するキリスト信者の影響力は決して小さなものではないでしょう。

韓国の民主化に大きく貢献した故金大中元大統領がカトリック信者だということは周知の事実ですし、また彼を始め、民主化運動に献身した多くの労働者、学生たちの精神的庇護者、そして官憲から追われて逃げてきた彼らの盾になったのが、今年の2月に神のもとに召された金枢機卿でした。

韓国巡礼・・・その6・最終回・・・

ジン・チェリ 古畑久美子

どこの殉教地にも色鮮やかな花が咲き乱れ、ことに赤いバラの花の色は、まばゆいといってもよいくらいの色で、それは、自らの身を捧げて血を流し、血で染め守り貫いた人々の信仰の土で育ったせいなのでしょうか。

この旅を通じ、参加できたことの喜びと感謝、そして自分自身の信仰を考えるよきチャンスとなったことを感じています。

今の私には、この身を投げ出してまで守り抜く信仰の思い、勇気はまだありません。それでも、いつでも、何処でも私は神様に守られている、み手の中に、胸に抱かれて生きているのだと改めて感じる事ができました。無力だから祈ることしか出来ない。それでよいのかもしれないと思える。心豊かに、穏やかになれる巡礼の旅だったと、深く感謝しています。

すべての人に ありがとう！ 【完】

北東アジアマリアニスト家族評議会 ソウルで開催

第三回北東アジアマリアニスト家族評議会が、10月10日～11日の二日間、ソウルで開催されます。この評議会は、日本と韓国のマリアニスト家族評議会が2年に一度、交替で主催し、両国のマリアニストの交流、共通の課題、福音宣教への取り組みなどについて分かち合うものです。2007年の秋には東京で開催され、有益な集いでした。今回、日本からはMLC 1名、FMI 3名、SM 3名が参加する予定です。

10日(土)は終日、FMIの本部で会議を行い、11日(日)は“世界マリアニスト祈りの日”に当たるので、韓国のマリアニスト家族と共に巡礼することになっています。

この評議会の成功のために皆さんでお祈りいたしましょう。

連載 マリアへの奉獻 (9)

マリア会司祭 富来 正博

この連載を始めたとき、「マリアへの奉獻」についての疑問を幾つか紹介しました。その中の一つに、「神をさしおいて他のものに奉獻することができるか？」と言うのがありました。・確かに奉獻は本来神に対してのみなされるものです。しかし教会はマリアへの奉獻という言葉を使ってきました。これは類比的用法です。神と被造物との間には無限の差があります。存在、力、愛、など無限の差があっても同じではありません。しかし何らかの共通点もあります。私たちの言葉は不完全で、無限の差がありながら、何らかの共通点があるものを表現するために適切な言葉を見出すのが困難なため、同じ言葉を使うことがしばしばあります。神の愛、人間の愛、神の力、人間の力などのように。

奉獻もそのような言葉です。「神への奉獻」と言うとき私たちの奉獻の終着点は神であることは自明なことですが、「マリアへの奉獻」と言うときマリアの特別の執り成しによって神に奉獻することを意味します。この場合も私たちの奉獻の終着点は神であることに変わりはありません。マリアの取次ぎを願うために、マリアにまず身を捧げるのです。この取次ぎの根拠は、1) 人類の救いの源であるイエス・キリストはマリアを通してこられたこと、2) マリアはその生涯を通してイエス・キリストと深く一致されたこと、3) 十字架においてイエスはマリアを人類の母(マリアの靈的母性)と立てられたことです。すなわち、救いのご計画において父である神がマリアにお与えになった役割は現在でも続いていることを前提としています。

「マリアへの奉獻」についてのいまひとつの疑問は、「キリスト教の靈性はキリスト中心主義ではないか? マリアへの奉獻はキリストへの私たちの歩みをそらせはしないか?」と言うものです。この質問に

対しても、救いの計画におけるマリアの役割を考察することによって肯定的な答えを引き出すことができるでしょう。

マリアはキリストの母として、その生涯を通して深くキリストと一致しておられました。さらにマリアはキリストの第一の弟子としてその教えを实践されました。そして十字架の下で全人類の母と立てられました。すなわちキリストの兄弟、もう一人のキリストを生み育てる役割を負わせられました。マリアの働きはすべてキリストへ向けられていました。わたしたちはマリアに近づくことにより、よりキリストへと近づきます。

奉獻の恵みに感謝して・・・ 新奉獻者の言葉

浅野晶子 (オリーブの木)

今年1月、「マリアニスト家族の集い」にて奉獻させていただきました。厳かなミサの中で奉獻の一連の式次第が終了すると、心底ホーッといたしました。和やかな親睦会でも、様々な方に「おめでとうございます」と声をかけられ、幸せな気分です。帰途につきましたが、さて、戦いはこれからといったところでしょうか。私自身まだ勉強途中です。これから少しずつ奉獻者に「なっていく」のだと思います。

ミサの共同祈願で、奉獻者として次のように申し上げました。「今日私たちは奉獻の恵みをいただき、新たな一歩を踏み出します。これからも家族や友人、周りの人々との絆を大切に、聖母マリアと共に主の道を歩むことができますように」と。絆という言葉は、最近よく耳にするようになりました。人と人とのつながりを意味するものですが、このタテにもヨコにも情報が張り巡らされている世の中で、不思議と絆は薄くなってきているようです。私は、絆というものは、信じ合う者同士の間にはじめて

生まれるものだと思っています。そして、絆が生まれる為には時間が必要とも。あらゆる事がスピーディに処理されるこの世の中にあっては難しい事かもしれません。

現在代表をつとめます「オリーブの木」(東村山)では奉献者は私のみですが、この会の中でマリアの自分との絆、主と自分との絆というものを考えていけたらよいなと思っています。スローに!!



お知らせ

日本創立 60 周年

—汚れなきマリア修道会—

1949年9月21日、「マリア会」の兄弟たちの招きに応じて、2人のスペイン人のシスターが「神代村」(現在の調布市)に到着してから60年の歳月が流れ、この9月21日、60周年を迎えます。この間、マリア会はもとより多くの方々の善意と物心両面の援助に支えられて今日あることを心から感謝しています。

9月22日(火)、ローマから総長を迎えて60周年の感謝のミサが捧げられ、ミサの中で1名のノビスの初誓願式、2名の姉妹の誓願50周年を祝います。

創立から60年、還暦を迎えた今、創立者シャミナード師が望まれた「死なない人」として生き続けるために、精神的な若さといのちの継承が求められています。

2009年世界マリアニスト祈りの日

今年10月11日の「世界祈りの日」は、中央アフリカのコンゴ民主共和国の首都キンシャサにある“平和の聖母”巡礼所に集います。間もなくこの巡礼所の説明と祈りの意向をお届けいたします。

信徒のための黙想会

《その1》

テーマ：主からの恵みをあじわう

日時：2009年10月17日(土)16:00
～10月18日(日)16:00

場所：汚れなきマリア修道会
町田修道院

指導：山崎政一神父(マリア会)

費用：5500円

《その2》

テーマ：その名はエンマヌエルと呼ばれる

日時：2009年11月28日(土)
10:00～16:00

場所：汚れなきマリア修道会
町田修道院

指導：Sr. 田中昌子(汚れなきマリア修道会)

申込み：①②ともに

町田修道院 Sr. 高尾まで

TEL 042-722-6301 FAX 042-725-6317

編集後記

今年はぐずついた天気が続き、各地で集中豪雨による災害ももたらされました。

「MARIANISTES」も残すところあと1号となりました。私が関わり始めてから10年が過ぎました。いつも「マリアニスト」とはと問いかけながら、お手伝いすることしか考えていませんでした。

なお、前号でお願いしましたアンケートに、たくさんのご協力をありがとうございました。
K. S.

発行 『マリアニスト』編集部

気付 「汚れなきマリア修道会」

町田修道院 清水一男神父

〒194-0032

東京都町田市本町田3050-1

TEL 042(722)6301

FAX 042(725)6317

HP: <http://www.marianist.jp/>